

平成24年度「電波の日・情報通信月間」記念式典を開催



式辞を述べる齊藤北陸総合通信局長



北陸情報通信協議会長からの表彰



好評だった受賞者によるトークセッション

総務省北陸総合通信局(局長 齊藤 一雅)及び北陸情報通信協議会(会長 永原 功 北陸経済連合会会長)は、平成24年6月1日(金)午前10時30分から、ホテル日航金沢において、関係者約140名にご列席いただき、平成24年度「電波の日・情報通信月間」記念式典を開催しました。

はじめに、齊藤局長が「地デジ移行の恩恵を視聴者、地域に還元していくことが大きな使命。また北陸からICTを活用した地域再生のモデルを創りたい」と式辞を述べ、永原会長は「ICTの利活用促進に取り組み、北陸地域の情報通信の普及・発展と豊かな地域社会の実現の一翼を担いたい」と挨拶しました。来賓の中西吉明石川県副知事からは「情報通信技術を活用した県民生活の質の向上、本県産業の発展に向けた取組を進めたい」と祝辞をいただきました。

引き続き、電波利用や情報通信の発展に功績のあった10個人及び9団体に対して、北陸総合通信局長及び北陸情報通信協議会長から表彰状の授与を行いました。(受賞者及び功績は報道資料を参照 URL <http://www.soumu.go.jp/soutsu/hokuriku/press/2012/pre120601.html>)

表彰状の授与に引き続き、「電波の日記念トークセッション『南相馬チャンネルを語る』」と題し、YouTubeで配信中の「北陸ICTチャンネル」の番組映像を参列者にご覧いただいた後、齊藤局長と受賞者4名(南砺市長 田中幹夫氏、南相馬市情報政策課長 佐藤祐一氏、株式会社ヨーズマー代表取締役 野口高志氏、株式会社アクトビラ代表取締役社長 香西 卓氏)によるトークセッションが行われました。

南相馬市と友好関係にある南砺市の田中市長は「北陸に避難されている方に責任を持って被災地の情報を伝えたいと思い、ヨーズマーの野口社長とともに南相馬市を訪れたことが始まり」、佐藤課長は「映像による情報の必要性を感じていたときに、ホワイトスペースを活用したエリア放送を提案され、これだと思った」、野口社長は「佐藤課長の前向きさ、田中市長と齊藤局長の支援への熱い気持ち、アクトビラさんの積極的なご協力に、日本人はなんてすごいんだと感じた」、アクトビラの香西社長は「北陸地域に避難されている方へインターネットTVのアクトビラによる映像提供実験の開始を、相談を受けてから過去に例のない速さで成し遂げることができた」と、それぞれに南相馬チャンネルの取組のエピソード等をお話いただきました。

最後に、齊藤局長が「東日本復興支援コンソーシアムでは、今後、南相馬チャンネルモデルにこだわらず、被災自治体による被災者(避難者)のための情報メディアを広く『東日本復興チャンネル』ととらえ、運営の支援を行っていけるようにしたい」と述べ、同コンソーシアムへの支援と協力を呼び掛け、閉会しました。